授業科目	＊疾病学総論					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	定永　敦司						
授業概要	実務家教員として病院勤務経験を有する内科医が、臨床経験をもとに様々な生体反応や疾病の病態生理を解説する。 病態生理をもとに疾病を理解することは、適切な看護を行うために不可欠である。 授業の前半では「炎症とは何か」など臓器を超えた多くの疾病に共通する生体反応の病態生理を解説する。後半では代表的な疾病の病態生理（疾病発生のメカニズム、疾病によって人体の構造と機能がどのように変化しているか）を解説する。 生体反応や疾病の病態生理を理解することで、２年次の「疾病学各論Ⅰ＆Ⅱ」で学習する疾患の症状、検査異常、治療法に連続することができる。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	病態生理に関する基本的な知識を身に付け、ひとに説明することができる。 １．壊死、炎症、循環障害、腫瘍化、など臓器を超えた病的な生体反応の病態生理を説明できる。 ２．各臓器における代表疾患の病態生理（発生メカニズム、構造と機能の変化）を説明できる。
理想的レベル	病態生理の知識をもとに、各疾患の症状や検査異常を理解し、看護に結び付けることができる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	90%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU11104J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
当該部分の予習と復習	1

授業計画	
第１回	テーマ：イントロダクション テーマ：細胞・組織の構成とその障害 壊死とアポトーシ スなどについて解説する。
第２回	テーマ：再生と修復、循環障害 創傷治癒、血栓、浮腫などについて解説する。

第 3 回	テーマ：炎症、免疫 炎症、アレルギーなどについて解説する。
第 4 回	テーマ：感染症、代謝異常 感染、代謝の総論について解説する。
第 5 回	テーマ：老化、新生児 加齢による変化、新生児の特徴を解説する。
第 6 回	テーマ：先天異常、腫瘍 染色体異常、腫瘍の発生メカニズム、病態などを解説する。
第 7 回	テーマ：循環器疾患 循環器の代表疾患の病態を解説する。
第 8 回	テーマ：呼吸器疾患 呼吸器の代表疾患の病態を解説する。
第 9 回	テーマ：消化器疾患 消化器の代表疾患の病態を解説する。
第 10 回	テーマ：内分泌疾患、血液疾患 内分泌器と造血器の代表疾患の病態を解説する。
第 11 回	テーマ：腎疾患、泌尿器疾患、生殖器疾患 腎臓、泌尿器、生殖器などの代表疾患の病態を解説する。
第 12 回	テーマ：脳・神経系 脳・神経系の代表疾患の病態を解説する。
第 13 回	テーマ：運動器疾患 運動器の代表疾患の病態を解説する。
第 14 回	テーマ：感覚器疾患 感覚器の代表疾患の病態を解説する。 重要な知識の再確認。
第 15 回	テーマ：総まとめ 授業内容の総まとめを行う。
テキスト	教科書：カラーで学べる病理学（第５版）、渡辺照男編、ヌーヴェルヒロカワ ＊付録の病理学整理ノートも使用します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書：看護のための臨床病態学（改訂５版）、浅野嘉延編、南山堂
課題に対するフィードバックの方法	成績発表後にクラスの評価点分布を提示します。

学生へのメッセージ・コメント	疾病に関する知識は看護師の日常業務に不可欠であり、看護師国家試験でも大きなウエイトを占めています。 「形態機能学」で学習する正常な人体の構造と機能を理解したうで、この授業に参加して下さい。 この授業で学習する内容は、２年次に開講される「疾病学各論Ⅰ＆Ⅱ」「薬理学」「看護のための臨床検査」と密接に関連します。疾病を多面的に捉えて理解するように心掛けて下さい。 講義は教科書に沿って行いますので、該当する箇所を予習するとともに、講義後はしっかりと復習をして下さい。 日頃からジャーナルやインターネットなどで疾病や健康についての関心を高め、分らないことは教員に質問するだけでなく、図書館で調べるなど積極的な姿勢に心がけて下さい。